

## I サムエル 7:1-14

01 キルヤテ・エアリムの人々は来て、主の箱を運び上げ、それを丘の上のアビナダブの家に運び、彼の子エルアザルを聖別して、主の箱を守らせた。

02 その箱がキルヤテ・エアリムにとどまった日から長い年月がたって、二十年になった。イスラエルの全家は主を慕い求めていた。

03 そのころ、サムエルはイスラエルの全家に次のように言った。「もし、あなたがたが心を尽くして主に帰り、あなたがたの間から外国の神々やアシュタロテを取り除き、心を主に向け、主のみ仕えるなら、主はあなたがたをペリシテ人の手から救い出されます。」

04 そこでイスラエル人は、バアルやアシュタロテを取り除き、主にのみ仕えた。

05 それで、サムエルは言った。「イスラエル人をみな、ミツパに集めなさい。私はあなたがたのために主に祈りましょう。」

06 彼らはミツパに集まり、水を汲んで主の前に注ぎ、その日は断食した。そうして、その所で言った。「私たちは主に對して罪を犯しました。」こうしてサムエルはミツパでイスラエル人をさばいた。

07 イスラエル人がミツパに集まったことをペリシテ人が聞いたとき、ペリシテ人の領主たちはイスラエルに攻め上った。イスラエル人はこれを聞いて、ペリシテ人を恐れた。

08 そこでイスラエル人はサムエルに言った。「私たちの神、主に叫ぶのをやめないでください。私たちをペリシテ人の手から救ってくださるように。」

09 サムエルは乳離れしていない子羊一頭を取り、焼き尽くす全焼のいけにえとして主にささげた。サムエルはイスラエルのために主に叫んだ。それで主は彼に答えられた。

10 サムエルが全焼のいけにえをささげていたとき、ペリシテ人がイスラエルと戦おうとして近づいて来たが、主はその日、ペリシテ人の上に、大きな雷鳴をとどろかせ、彼らをかき乱したので、彼らはイスラエル人に打ち負かされた。

11 イスラエルの人々は、ミツパから出て、ペリシテ人を追い、彼らを打って、ベテ・カルの下にまで行った。

12 そこでサムエルは一つの石を取り、それをミツパとシェンの間に置き、それにエベン・エゼルという名をつけ、「ここまで主が私たちを助けてくださった」と言った。

13 こうしてペリシテ人は征服され、二度とイスラエルの領内に、入って来なかった。サムエルの生きている間、主の手がペリシテ人を防いでいた。

14 ペリシテ人がイスラエルから奪った町々は、エクロンからガテまで、イスラエルに戻った。イスラエルはペリシテ人の手から、領土を解放した。そのころ、イスラエル人とエモリ人の間には平和があった。

## 要約

□序論\_まことの福音が何か分かれば終わる

まことの福音を分からなくて信仰生活することはできる。水準が偉い人は高くして、大きい人物は大きくもする。しかし、まことの福音を悟ることができなければ、靈的いのちが私にない。真実なことが分からなくなる。

1. まことの福音を分からないイスラエルの国は大きく 3 回事件にあった

- 1) エジプトの奴隷に
- 2) バビロンの捕虜に
- 3) ローマの属国になった

△ところで、まことの福音が分からないから、これを解釈できない。まことの福音を知らず、靈的な目がないので、侵略されることに対する不安のために、全世界の国を殺して滅びたエジプトとバビロン、バビロンを打ったペルシヤ、ローマ、このような国々を、何か解釈をできなくて奴隷、捕虜、属国になった

2. ペリシテの国はどんな国かーサムエル以前に 14 人の士師がペリシテに對抗できなかった

- 1) 原住民を滅亡させて入ってきた国で、強力な海洋民族を作って五つの大きい町(ガザ、アシュドデ、アシュケロン、エクロン、ガド)を掌握
- 2) ダゴン神、アシュタロテ、バアル・ゼブブの三つの神に仕えた。
- 3) イスラエルが出エジプトして出るとき、カナン征服して入ってくるときも妨害
- 4) 14 人の士師時代のとき、ずっと略奪、攻撃して入ってきた。
- 5) イスラエル初代王サウル王まで殺した。

3. 福音を知ってこれを正確に見たサムエル(エペ 6:12) - 私たちの格闘は血肉に対するものではなくサタンとの戦い  
→サタンの四つのこと=政治、権威のある者、この暗やみの世界の支配者たち(犯罪者)、また、天にいるもろもろの悪霊(おかしな宗教団体)
  - 1) ペリシテが問題でなく、このペリシテの人と王たちを不安にさせるサタンが問題
  - 2) さらに大きな問題は、王たちが問題でなく、私たちが問題であることを悟った
  - 3) まことの福音を悟ってしまえば、事実は戦わないで勝つようになる。

□本論\_他の人が、1代から14代まで一度も悟ることができなかった正確な契約を握ったサムエルがどんな契約を握っていたのか

#### 1. ナジル人のまことの契約を握った

- 1) ナジル人は霊的なことを知って、力を持って福音を知る指導者
- 2) それゆえ、神様がサムエルに、起きる幻を見せて、サムエルのことばを一言も地に落ちないようにされた
- 3) そのサムエルが民を全部集めて祈り会をした(ミツパ運動)

まことの福音を伝える教会ならば、神様は注ぎ込まれるようになっている。まことの福音を分らない教会は、ある必要がない。まことの福音を分かるならば、みなさんのすべてのことを神様が責任を負われる。心配しなくてもよい

#### 2. まことの祈りが始まったが、初めてのできごと

- 1) 私と私たちの誤りを悟ってミツパに集まって祈り運動(5節) - 契約を知って祈るならば、ミツパ運動が起きる  
多くの人が見るとき、まことの福音ではない。これが問題。まことの福音でなければ、サタンが攻撃するようになっている。十字架、キリスト、単語が滑稽に見えるかもしれないが、みなさんと国にのろいをもたらそうとするのがサタンのしわざ(1ヨハ3:8)。この事実を知ってミツパに集まった
- 2) このとき、神様が雷鳴をとどろかせてペリシテをみな打ち破られた(10節)。みなさんがまことの契約を回復して、まことの働きを始めるならば、どんなことも恐れる必要がない
- 3) サムエルが生きている間にはペリシテが攻め込むことができなかった(13節)
- 4) サムエルが生きている間にイスラエルに平和があった(14節)。神様が与えられる平和が一番大きい祝福。まことの福音を持つ人がまことの契約を悟れば神様が働かれるようになっている。まことの福音を持つ人が度々他の人を言い訳にするのではなく、まことの悟りをもってまことの働きをすれば、神様が働かれる

#### 3. まことの福音を持って教会らしい教会を始めなければならない - 集まって悔い改め運動

- 1) 主なる神様だけ見上げなさい - 神の民が価値のないこと、間違ったことを見つめるので
- 2) 偶像をみな取り除きなさい - アシュタロテ(ペリシテの神)を取り除きなさい
- 3) 乳離れしていない子羊一頭をささげた - エジプトで羊の血を塗った日に解放。これから十字架の血の力で暗やみを打ちこわす。これを悟った人はなぜ人々がわざわざいの中で、そのようにしているのか理由を知っている

□結論\_ミツパ運動の主演教会になりなさい。契約を正しく握りなさい

1. 残りの者。それゆえ、ここに置かれた
2. これから世界福音化に行かなければならない巡礼者
3. 人ではなく、暗やみをひざまずかせる征服者

これを握って行くのだ。それゆえ、みなさんがいつでも神様の契約を正確に握りなさい。神様の契約を正確に握ることが重要だ。その人物がハンナでありサムエル。人の約束も正確に握れば成り立つ。神様の契約を正確に握ったなら、そのときから働きは始まる。まことの福音の契約が何か質問しなさい。すると、まことの教会の答えを受ける。

#### 全文打ち出し翻訳

非対面で私たちが礼拝するので、多くの方々が出席できませんでした。それでも、今日、みことばをみなさんがよく握らなければなりません。2年ぶりに蔚山に来ました。実際には、いま、全国、世界いっしょに礼拝しています。私が部隊で訓練を受けていたとき、私を呼びに来ました。今日から行政室で勤務をなささいということです。ところで、私が引き受けたおもな業務は、司令部から行ったり来たりする秘密文書担当でした。その秘密文書は、その部隊では隊長室の中にあります。ですから、私が隊長室に行ったり来たり、たくさんするようになりました。隊長が私に話しました。私が誰なのか知って言われるのです。「私も昔には教会に通っていた。私は聖日学校の教師の総務までした。ところで、今、私が完全に崩れて墮落した」ということです。そのような方々は多いです。私はその方に責任があるとは考えません。

□序論\_まことの福音が何か分かれば終わる

みなさんが今、まことの福音が何か分かれば、終わるのです。まことの福音を分からなくても、信仰生活はできます。水準が偉い人は高くして、大きい人物は大きくもします。

まことの福音を悟ることができなければ、霊的ないのちが私にないのです。いくら美しくても、これ(講壇の上の花)は、ここに今、飾った瞬間、これはもういのちが終わったのです。子どもが生まれれば乳を飲むべきで、蜜、砂糖をいくら与えてもだめです。乳飲み子が何かネックレス、指輪そのようなものは必要ありません。母親の乳を飲まなければなりません。ですから、このまことの福音を分からないから、真実なことが分からなくなるのです。もちろん、何か教会が多く、宗教が多く、そうすれば、社会が少し安定します。そうでしょう。しかし、それとまことのいのちとは違うでしょう。

1. まことの福音を分からないイスラエルの国は、大きく3回事件にあった

ですから、これを分からないから、イスラエルの国は大きく3回事件にあいました。それが为什么呢。これを解釈できないのです。どうになりましたか。エジプトに奴隷として行ったのではないのでしょうか。また、バビロンに捕虜となって行ったのではないのでしょうか。また、ローマに属国になったのではないのでしょうか。これが聖書の話です。実際にあったことです。そこから解放される話です。

ところで、まことの福音を分からないから、これを解釈できないのです。私の心配は一つしかありません。私は何の心配もありません。一つしかありません。教会に通っている方と働き人がまことの福音を知らずに、味わうことができないということが残念な思いがあるのです。あわれです。さらに驚くべきこと、そのような教会が大部分です。その話をしたら、韓国教会が私を攻撃しました。攻撃するだけのことはあります。私がそう言ったから。韓国教会で私を攻撃したのが何でしょうか。「あなただけ福音なのか」このように出てきました。「それなら、あなたの教会だけに救いがあるのか。それでは私たちはみな間違っ、あなただけが真理なのか」このように出てきました。私が話したことはそうではないでしょう。まことの福音を味わえば、事実は終わります。ひとまず、見る目が変わります。

1) エジプトの奴隷に

エジプトを話してみましようか。エジプトは、今のエジプトです。一時、完全に滅びてみな滅びました。今は、中東で石油のために生きて、その程度しかありません。それが世界を動かしていました。ところで、それが動かしていたのでもありません。エジプト王がとても不安だったので「世界を取って食べなければ私たちが死ぬ」と考えたのでした。今、どうですか。いや、形が違うだけであって同じでしょう。「私たちが力を大きくしなければ、あのアッシリヤが攻め込む。アラム国が来るかもしれない」こうして、多くの国を殺して捕まえて行って、これがエジプトです。エジプトはどうになりましたか。滅びてしまったのです。聖書に滅びると預言されて、滅びました。

2) バビロンの捕虜に

すると、その後、イスラエルはまだ分からないから、まことの福音を分からないから、これが何か解釈できないから、また、バビロンに捕虜なるのです。同じ形でバビロンが全世界を、人々を強制的に捕まえて行って奴隷と捕虜と、このように。まったく同じでしょう。バビロンの王は不安で、ものすごい偶像神殿を作ってお酒の宴会をして、壁に字が出てきて……このようだったではないですか。ところが、もうこれが福音を分からないから、霊的な目がないから、「わあ、すごい国」このように話します。それは滅びたのではないのでしょうか。バビロンが今どこですか。イラクではないですか。何の力もありません。地球上に多くのわざわいを作っておいて行きました。

歴史が流れてペルシヤがきて倒してしまったのです、バビロンを。このペルシヤがまた、掌握をしました。また。全く同じことで、捕虜として捕まえて行って、このようにしたのです。そのときに出てきた人物がエステルではないですか。すると、ペルシヤは今どこの国ですか。ペルシヤ。どこですか。イランではないですか。韓国と前にサッカーした、その国。その人々は1つゴールを入れればサッカーしません。寝てそのように。コートで。そのような水準だということです。

3) ローマに属国になった

それから、どうになりましたか。ローマに属国になったのではないですか。それでは、このローマはどのようにになりましたか。同じように、不安でした。王が不安なのです。そのときは、王が法でした。王が不安なので、全世界を掌握するのです。福音を分からないから理解できないのです。

その当時、最高の問題を起こしたネロ、このようになります。その人も初めには政治が上手でした。ところが不安なのです。幸せがなくて。「いや、誰かが私を殺すのではないか」こう思うから、前の王の息子が一人いました。不安だから、どうしますか。毒殺します。宴会に呼んで毒薬を入れて殺します。それで、自分の母親が干渉するから、母親を殺します。ですから、人々がいろいろ話をするでしょう。その話をした人の中に有名なスペインの、その自分の指導者を殺します。狂ったのです。後ほどローマに火をつけます。その「キリスト教徒が火をつけた」このように話して。結局、自殺します。それがネロです。ローマの歴史で、クリスチャンを最も苦しめた人です。なぜこのようになるかということです。福音を知らないから、解釈できないのです。

## 2. ペリシテの国はどんな国かーサムエル以前に 14 人の士師がペリシテに対抗できなかった

今日のペリシテの国はどんな国でしょうか。サムエル以前に 14 人の士師がいましたが、対抗することができなかったのです。

### 1) 原住民を滅亡させて入ってきた国ー大きい町掌握

本来は、ペリシテという国は、原住民を滅亡させて入ってきた国です。地中海のそばのパレスチナ、そちら側の方に攻めてきました。強力な海洋民族を作って、大きい町を掌握しました。それが、ガザ、アシュドデ、このような名前が出てきますね。アシュケロン、エクロン、このような名前が出てきます。その中にみなさんがみなよく知っている「ゴリヤテの故郷ガド」このように出てきます。その有名なゴリヤテがペリシテの人です。その人がガド地方の人です。このように、五つの大きい町を作りました。

### 2) ダゴン神、アシュタロテ、バアル・ゼブブ、三種類の申を仕える

その程度ではありませんでした。ものすごいペリシテの人を縛る 3 大神をまつっていました。それがダゴン神です。それから、アシュタロテ、バアル・ゼブブ。このような、とても大きい神々を。それで、イスラエルをずっと攻撃してきたのです。なぜ来たのかというと「おまえたちは私たちが征服する」という意味もありますが「あなたたちを征服しなければならない」と考えたのです。錯覚したのです。まるで昔に日本が「韓国を治めてこそ、あの中国に行くことができる」と考えたのです。それは忠誠心を持ってしたこと、錯覚であって。そして「私たちがこのように島にいれば殺されてしまう」と考えたのです。そのように不安感が生まれるから、全体に神殿を作って、このように。全く同じです。

### 3) イスラエルが出エジプトして出たとき、カナン征服して入ってくる時も妨害

これがペリシテは、出エジプトして出る時も邪魔したのではないですか。カナンに征服して入ってくる時も邪魔しました。

### 4) 14 人士師時代のとき、ずっと略奪、攻撃して入ってくる

みなさんがご存じのように、14 人の士師時代のとき、ずっと略奪、攻撃して入ってきたのがペリシテです。

### 5) イスラエル初代王サウル王まで殺した

みなさんがご存じのように、イスラエル初代王サウルを、誰に殺されましたか。ペリシテが攻め込んで殺したでしょう。これがペリシテです。ただ殺したではありません。サウルの首をはねました。いや、このサウル王を、イスラエル初代王なのに首をはねたのです。実際の歴史の話です。そして、その程度ではありません。このサウルを城壁にさらしました。死体を。(死体を)城壁にはりつけて、釘をさして。何の話でしょうか。イスラエルと全世界に、見なさいということです。「これが私たちペリシテだ。話を聞かなければ死ぬと思え」このことです。続けて苦しめます。ところで、分かってみれば、この王たちがとても不安なのです。

△みなさん、バビロンがイスラエルを捕まえて行くとき、どのようにしましたか。最後の王、ゼデキヤ王。自分の話を聞かないと不安になって、目玉を抜いたのではないですか、王の。歴史にそうなっています。どんなことが起こるかもわかりません。それから、このゼデキヤ王を、目を単に抜いたのではなくて、再生の可能性がないように、火で焼いて抜きました、自分の話を聞かないと。そうして、バビロンまで行く二千里の道を越えて。そちらへ引きずって行ったのです。馬に引きずらせて。そのまま引っ張って行ったのではなく、両足に錠をはめておいて。すべてのイスラエルと世界は見なさい、これでしょう。私たちのことばを聞かないと、このようになる、このことです。バビロン、そして滅びました。これが不安なのです。

## 3. 福音を知ってこれを正確に見たサムエル(エペ 6:12)

正確にこれを見た人物が出てきました。その人がサムエルです。これが、エペソ 6 章 12 節を見ると、このように記録されています。「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、サタンと戦いだ」そう言われているでしょう。このサタンは、4 つのことをするとされているでしょう。「主権」サタンがエジプトをそのようにさせたので。王がどうすることもできず、そのようにさせてしまったから。「力」そう言われています。このような権威者など。もう二つ残っているでしょう。「この暗やみの世界の支配者たち」犯罪者です。犯罪が組織もあって、あるところでは国もあって、このようです。やたら人を殺します。もう、一つなんですか。「天にいるもろもろの悪霊に対するものです」おかしな宗教団体を作って人を変にさせる、それサタンがすることです。

これを分かる人物が出てきました。そうして、何の力もない者だったのですが、世の中を変えました。簡単に話せば、福音を分かる者が出てきた、これです。福音を分かれば簡単です。ペリシテが問題でなく、これです。このペリシテの人と全世界の王たちを不安にさせるサタンのしわざを分かるのです。「さらに大きな問題は、ペリシテでなく私たちが問題だ」これです。これを悟った人物が出てきたのです。みなさん、まことの福音を悟ってしまえば、事実は戦わないで勝つのです。サムエルが戦わないで勝ちました。今日、私が 2 年ぶりに来ましたが、また、私たちの市長が出席をしています。私が知っているのは、とても重要な方だと思います。とても、サムエルのような、このような祝福を受ければ、韓国に大きな影響を与えることができる方だと私は思います。

日本論\_他の人が、1代目から14代目まで一度も悟ることができなかった正確な契約を握ったサムエルが、どんな契約を握っていたのか

さあ、このサムエルがなんでしょう。他の人が一度も悟ることができなかった正確な契約をしっかりと握ったのです。それが重要です。理由を分かったから。なぜペリシテがそのようにするか、理由を分かったのです。本人も知らずに、とことん行きます。私が日本を見ていつもこの話をするでしょう。神社を作って偶像崇拜すれば、精神病がものすごくたくさん出ます。知らないです。聖書にだけはならないと言われていました。聖書にだけはならないと言われていました。聖書は神様のみことば。他の本にはすべてするようにとされています。それゆえ、私が日本のメッセージのとき、度々話すでしょう。聞いても聞かなくても、事実だからです。今まで一度も悟れなかったので、どれくらい歳月が長いでしょうか。1代目の士師から14代目まで分らなかったからです。

## 1. ナジル人のまことの契約を握ったこと

### 1) ナシリンは霊的であることを知って力を持って福音分ける指導者

初めて正確な契約を握ったのですが、その人がサムエルです。どんな契約を悟ったのでしょうか。ナジル人。ナジル人とはなんでしょう。霊的なことを知って、力を持って福音を分ける指導者。

### 2) 神様がサムエルに起きる幻を見せながらサムエルのことばを一言も地に落ちないようにされる

ですから、神様がサムエルに起きる幻を見せながら「サムエルのことばを一言も地に落ちないようにされた」そうされました。

### 3) そのサムエルが民を全部集めて祈禱会をした(ミツパ運動)

その人が、今日、民を全部集めて祈禱会をしたのです。これがミツパ運動です。今日、ミツパ運動です。

△みなさん、教会建築もあって、多くのことがあります。心配せずに、まことの福音を伝える教会ならば、神様は注ぎ込まれることになっています。そうですね。私が牧師であるので、牧師の良心で話します。牧師がまことの福音ではないことを伝えてはいけません。その牧師はいなくなればなりません。そうでしょう。教会はたくさんあります。こんなに多くなければなりませんか。夜に飛行機に乗って見下ろせば十字架が赤くて、いっぱい見えます。韓国は天国ですか。まことの福音が分からない教会はある必要がありません。そうでしょう。本当です。まことの福音を分けるならば、みなさんのすべてのことを神様は責任を持ってくださるはずですよ。心配しなくても良いのです。私は最初から心配しませんでした。私は30年前にはじめたとき、全世界福音化されると、私は信じました。なぜでしょう。事実ですから。まことの福音なら。まことの福音なら、世界へ伝えられるようになっているでしょう。はじめて悟った人です。

## 2. まこと祈りが始まったが初めてのできごと

二つ目です。それゆえ、まことの祈りが始まったのですが、初めてのできごとです。

### 1) 私と私たちの誤りを悟ってミツパに集まって祈り運動(5節)

私と私たちの誤りを悟って祈り始めるのです。「ペリシテが悪い国だ」いくら話しても無駄です。それゆえ、ミツパに集まって祈り運動をしたのです。それが5節です。5節に記録されています。重要です。みなさんが契約を知って集まれば、ミツパ運動が起こるのです。みなさん、蔚山の話です、本当に契約を持った者が集まって祈る!みわざが起こるのです。心配しないでください。私は多くの人を見ると「仕事の問題ではなく、あの人がまことの福音ではない」それが問題です。

なぜでしょう。まことの福音でなければサタンは攻撃するようになっています。このサタンは、十字架、キリスト、この単語が世の中の人々が見るのに滑稽に見えるかもしれませんが、それでなければ恐れません。サタンはみなさんと重要な方々と国にのろいをもたらそうとするのが、サタンがすることです。それゆえ聖書に「神の子が来られたのは悪魔のしわざを打ちこわすためです」

### 2) このとき、神様が雷鳴をとどろかせてペリシテをみな打ち破ったこと(10節)

この事実を知って、ミツパに集まったということを知って、ペリシテがまた攻め込んできました。この人はあきれますね。どのように知ったか、また攻めてきました。このとき、10節を見ると、神様が雷鳴をとどろかせます。ペリシテをみな打ち破ったのです。神様の働きです。心配することはありません。みなさんがまことの契約を回復して、真実なことを始めるならば、どんなものも恐れる必要はありません。

### 3) サムエルが生きている間にはペリシテが攻め込むことができない(13節)

聖書はこのように記録しています。「サムエルが生きている間にはペリシテが攻め込むことができなかった」

### 4) サムエルが生きている間にイスラエルに平和があった(14節)

戦わなかったのですが。「サムエルが生きている間にイスラエルに平和があった」14節です。

特にみなさんと正しい教会、私たちの市長に、平和があふれる国、平和があふれる市。神様が与えられる平和、それが一番大きい祝福です。ひょっとして、私が、多額のお金を持っていて、大きい何かそれを持ったとしても、私が不安で

あって、霊的に幸せでないならば、無駄なことですね。まことの福音を持つ人が、まことの契約を悟れば、神様が働かれることになっている、その話です。まことの福音を持つ人が、度々他の人を言い訳にするのではなく、本当に悟って、この働きをすれば、正しい契約で始めれば、神様が働かれるようになります。正しいことなのですが、ペリシテの悪口をずっと言っているのは、それは無駄なことです。そうでしょう。

3. まことの福音を持って教会らしい教会を始めなければならないー集まって悔い改め運動  
三つ目です。まことの福音を持って、教会らしい教会をはじめべきだということです。

1) 主なる神様だけ見上げなさい

今日、何と言いましたか。集まったので、悔い改めをするのです。「心を主に向け、主にのみ仕える」そう言いました。この言葉が何の話でしょうか。ぱっと見れば、「心を主に向け、主にのみ仕える」これが何の話でしょうか。神様の民がつまらないこと、違ったことを度々見つめるからです。

2) 偶像みな取り除きなさい

「偶像をみな取り除きなさい」特に何が出て来たかという「アシュタロテを取り除きなさい」アシュタロテはなんでしょうか。これがペリシテの神です。

3) 乳離れしていない子羊一頭をささげた

そして为什么呢。「乳離れしていない子羊一頭をささげた」と9節に言われています。これが誰も分からない奥義です。乳離れしていない子羊とは、为什么呢。エジプトに奴隷となったとき、羊の血を塗った日に解放されて出ました。

とても重要な話です。これから、十字架の血の力で暗やみを打ち砕く。同じ話です。これをしっかりと悟った人々は、ああ、理由を分かるでしょう。なぜ人々がわざわざの中で、そのことしているのか。殺人もするのです。自分が損をするのに。多くの暗やみの勢力の中に人々が捕えられているので、そうするのです。

□結論\_ミツパ運動の主役教会になりなさい。契約をしっかりと握りなさい。

今日のタイトルは、「ミツパ運動」はみなさんが知っているから「主役教会になりなさい」とても難しいですか。そうではありません。とても簡単です。立派な方々が違ったこと度々するから、簡単です。私のあかしを何度か聞かなかったでしょうか。私は家もなく教会堂もないときに、ヨンドに入りました。行って、すこししてから私のよく知っている方がソウルにみな教会堂を作っておいて、家も準備して出て来てくださいと言ったのです。瞬間、行く心もありました。行けば大変なことになるところでした。ところで、私には良心があるでしょう。いや、ヨンドにすると来たのに、良い条件あると行って良いでしょうか。それで私が「ノー(No)」と言いました。行かなくて、良かったのです。そうでなければ、みなさんにも会えず、あのソウルに行っておかしな人々に会って生きるころだったということです。心配しないでください。ソウル教会、大きい教会を探訪してみたら私が来ました。私はそのようにしないことにしました。教会はお金のための企業ではありません。その企業を置いてポジション争いをするのが教会ではありません。韓国教会を批判するのではなく、私は間違っていると考えました。ヨンドにきて、重職者を集めて話しました。私たちは聖書にある通り世界福音化しなければならぬ。私が伝道する人に間違いのないならば、神様は教会とみなさんを祝福されるだろう、正しいならば。

今は、全世界 119 か所で放送されています。多くの Remnant が起きています。そこに一役買っているのが蔚山、今、インマヌエル教会です。そうでしょう。重要です。私たちの長老と私たちの姜牧師、このような人々で、とてもこれが重要な役割を果たしています。

だまされしないでください。私はこのように話しました。私は大きい力がありません、ないですね。率直に。大きい背景もなく、多額のお金もありません。事実、なかったから。いまはみなさんがいて背景がありますが、そのときはありませんでした。さらに重要なこと、これが必要なのではない、これです。人々が実際に死んでいっています。話はずいぶん。うそをついています。ある人は、うそをついて自殺して。何の問題があるのでしょうか。ありません。自分ひとりでそのように苦労するのは。うつ病になった人には理由があるからでしょうか。憂鬱ですが、どうするのですか。そして、一人でいつも考えるのです。どうすれば死ぬのか。それを考えるのです。このような人がとても多いです。私たちの教会が何をすべきでしょうか。契約をしっかりと握らなければなりません。

1. 残りの者。それゆえ、ここに置いたこと

残りの者。それゆえ、みなさんをここに置いたのです。

2. これから世界福音化に行かなければならない巡礼者

これから、世界福音化、蔚山福音化に行かなければならない巡礼者。

3. 人ではなく、暗やみをひざまずかせる征服者

人ではなく、暗やみをひざまずかせる征服者。それを握って行くのです。それゆえ、みなさんがいつでも神様の契約を正確に握りなさい。はやく握れなくても良いです。みなさんが神様の契約を正確に握ることが重要です。その人物がハンナであり、サムエルでした。

みなさんが昔にあったことご存知でしょう。中国に高麗人参を売りに行ったのです。韓国の高麗人参が良いから中国に売りに行ったということです。この人は社長ではなくて職員です。中国に行ったのですが、友人がおかしな人々で。これが度々「飲み屋に行こう」と度々こう言うのです。中国に行ったら、そういうこともあるでしょう。行ってそのようにしたのです、酒を飲んで。「ああ、私がお金をみな払ってきたから、見てきたから、遊女の家に行こう」と言うのです。友人がお金をみな支払ったから行こうというので。行ったのです。この人に来た女がいるでしょう。それが幼い少女でした。はじめてきたのですが、ぶるぶる震えて泣いているのです。そのお父さんもおかしなお父さんです。その娘をそこ売りました。よりによって、その子が来た初日でした。その子が不安で死ぬような思いでした。だから、この人が、いくらで売られてきたかと尋ねました。金額がかなり大きくて。それで、この人が高麗人参を売って持っているお金、自分のお金でもなかったのですが、それを渡して、この子を送り帰したのです。

この子がとても助かって、出てきて、逃げて大きい金持ちの家に家政婦で入ったのです。それだけでも、この子は幸せでしょう。ところで、とてもなかなか良い子でした。中国に、知らずに行ったのですが、中国で最高のお金持ちの家です。そこで、自分がお飯を食べることだけでも感謝して。熱心に仕事をしたのです。

ある日、その病気になった奥様が、自分を呼んだそうです。どうしても、私があなたにお願いしたいと思う。それで、そのお願いが何か。あなたは、見れば見るほどとても良い子だ。私は今、病気にかかっていくらも生きられない。なので、夫が許したので、夫にあなたが仕えなさい。簡単に話せば、結婚しろということです。死んだら、そうしなさいということでしょう。それで、結婚したのです。知ったところ、この夫が中国を動かす財閥でした。このとき、もうおばさんになった少女が、約束が思い出したのです。自分を助けたその韓国の人。何の条件もなく、この人はその金のために会社に首を切られましたから。お前はうそをついていると、どこかでお金をなくしてきておいて。それゆえ、田舎に行っていました。どうして、その少女がその人の名前を忘れるのでしょうか。忘れないでしょう。夫に話して、訪ねて行ったのです。助けてあげよう、このようになりました。単に助けるのではなく「あなたと私たちの事業をしよう。あなたは信じられる韓国の人だ」私たちの韓国初代財閥イム・サンオク氏です。実際にあったことです。人との約束もです、このように正確に握れば、成し遂げられます。私たちが神様の約束を正確に握った、そのときから、働きは始まるのです。

今日、全国世界にいる私たちの家族、まことの福音の契約が何かと質問すれば良いのです。すると、まことの教会の答えを受けるでしょう。今週にその恵みがあふれることを主イエスの御名で祝福します。祈ります。

祈り

神様に感謝します。全国、世界にいる私たちの家族が今日、正確な契約を見上げる始まりになりますように。特に私たちの韓国を祝福してください。今日、いつもともにいる私たちの市長に、神様が両手をあげて祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン